



民族衣装で気分もスウェーデン風!! 第20回「夏至祭」



当別・レクサンド都市交流協会と町などが共催し、今年20回目を迎えた「夏至祭」が、スウェーデン交流センター周辺で開かれました。

同センターの中庭では初夏の晴天のもと、吹奏楽のオープニングコンサートに耳を傾ける人や、カフェテリアで軽食やお茶を楽しむ人など約3,000人の来場者であふれました。

また、スウェーデン風の民族衣装も貸し出され、かわいらしいスカートをはいた子供たちもマイストングを運ぶ行進に参加し、公園内では、全長約10メートルのマイストングが、地域住人14人ほどの男性の手によって掛け声とともに、ぬけるような青空にむけて垂直に立ち上げられました。この後、マイストングを囲んで、埼玉県から来町した、スウェーデンダンス愛好会(39人)の方を交えて、北欧のフォークダンスなどを楽しく踊りました。(6月22日)

田植えや乗馬で楽しく自然を学ぶ 篠津地域で農業体験学習

今年で4回目を迎えた北海道土地改良事業団体連合会・篠津中央土地改良区・新篠津土地改良区(愛称=水土里ネット)が主催する「篠津地域農業体験学習」が篠津運河沿いの川南揚水機場周辺で開かれ、町内や札幌市近郊から440人の親子連れなどが参加しました。

田植え体験では、最初は田んぼに入るのを戸惑っていた子供たちも、泥にまみれながら指導員より何度も苗を受け取り、楽しく体験しました。秋には同場所で稲刈り体験も行われます。

また、札幌乗馬クラブの協力による乗馬体験では、順番待ちの長い列ができ、子供たちは自分の順番が回ってくるのを心待ちにしていました。

当日はその他、植樹体験や揚水機場の見学、お昼にはジンギスカンを味わい、自然とのふれあいを楽しんでいました。

(5月31日)



広報誌で紹介した写真を
希望者に提供します。

●お申し込み●

秘書課広報広聴係 ☎ 3-3069 へ

力強い踊りで観客を魅了 「YOSAKOIソーラン祭り」

当別YOSAKOI踊り隊
(札幌ファクトリー会場)



全国各地より330チーム・約3万4千人が参加した「第12回YOSAKOIソーラン祭り」に「当別YOSAKOI踊り隊」(8年連続)と「ふとみ元風会」(3年連続)が出場しました。

当別YOSAKOI踊り隊は「まちの駅アウル」で、ふとみ元風会は「JR石狩太美駅」でそれぞれ出陣式を行いました。

札幌市内の各会場では笑顔を絶やさず、力強い踊りを披露。集まった大勢の観客から大きな声援が送られていました。

(6月7・8日)



ふとみ元風会
(イシヤチョコレート
ファクトリー会場)

カミネッコンによる森づくりを エゾヤマザクラ 80本・柳 800本を植樹



当別ダム植樹の会実行委員会では、心に残る風景をみんなで作ろうと、青山交流館(青山奥)で東三郎北海道大学名誉教授の実践指導のもと再生紙のポット(カミネッコン)を作成。130人の参加者は、柳10個・エゾヤマザクラ1個を一つのグループとして同館に隣接する道有地にポットを植樹しました。(6月7日)

今年で20周年 とうべつファミリー農園が開園

開園20周年を迎えたファミリー農園。毎年会員を募集し、ジャガイモ畑を貸し出し、種付けから収穫まで豊かな自然の中での農園体験ができます。

開園式には、札幌市近郊などから約1,000人が集まり、初めて体験する方、毎年会員になっている方など、区画割りをされた自分の畑に種芋の植え付けを行いました。植え付け後は、ジギスカンを舌づんだり、うさぎなどと触れ合うことができる動物ふれあいコーナー・ビンゴゲームなどを楽しみ、日曜の昼下がりのひとときを過ごしていました。(5月25日)



つくし共同作業所が開所1周年

6月に1周年を迎えた「つくし共同作業所」は記念式典と記念講演を開催しました。町内で精神に障害がある人の、夢や希望の実現の場となる同作業所は、専従スタッフに支えられながら地域と関わり、現在17人が工芸品などの製作活動や語らいの場として活動しています。同作業所の谷中運営委員長は、「夢を失わないようにこれからもメンバーのみなさんと活動していきたい」と挨拶。式典後に、ロス郡精神保健協会長リチャード・バーンホン氏が記念講演を行いました。(6月16日)



安全な住民生活を守るため当別消防訓練大会

日ごろの訓練を披露する当別消防訓練大会が、町総合体育館で行われました。町内から集まった各分団など190人の入場行進のあと、石狩北部地区消防事務組合管理者の泉亭町長は「消防団のみなさんは、高度な知識と技術が求められる災害の対処に、本大会を通じて積極的に訓練を積み、相互の連携を深めていただきたい」と式辞を述べました。

各分団員は訓練の成果を、消防ポンプ操法や放水訓練などで披露しました。(6月16日)

